

愛

宮本百合子

青空文庫

愛ということばは、いつから人間の社会に発生したものでしょう。愛という言葉をもつようになつた時期に、人類はともかく一つの飛躍をとげたと思います。なぜなら、人間のほかの生きものは、愛の感覚によつて行動しても、愛という言葉の表象によつてまとめられた愛の観念はもっていませんから。

更に、その愛という言葉が、人間同士の思いちがいや、だましあいの媒介物となつたのは、いつの頃からでしょう。そして、愛という字が近代の偽善と自己欺瞞のシムボルのようになつたのはいつの時代からでしょうか。三文文士がこの字で幼稚な読者をごまかし、説教壇からこの字を叫んで戦争を煽動し、最も軽薄な愛人たちが、彼等のさまざまなメントに、愛を囁いて、一人一人男や女をだましています。

愛という字は、こんなきたならしい扱いをうけていいでしょうか。

愛という言葉をもつたとき、人間の悲劇ははじまりました。人類愛という声がやかましく叫ばれるときほど、飢えや寒さや人情の刻薄がひどく、階級の対立は鋭く、非条理は横行します。

わたしは、愛を愛します。ですから、このドロドロのなかに溺れている人間の愛をすく

い出したいと思えます。

どうしたら、それが可能でしょうか。わたしの方法は、愛という観念を、あっち側から扱う方法です。人間らしくないすべての事情、人間らしくないすべての理窟とすべての欺瞞を憎みます。愛という感情が真実わたしたちの心に働いているとき、どうして漫画のように肥った両手をあわせて膝をつき、存在もしない何かに向って上眼をつかつていられますよう。この社会にあつては条理にあわないことを、ないようにしてゆくこと。憎むべきものを凜然として憎むこと。その心の力がなくて、どこに愛が支えをもつでしょうか。

愛とか幸福とか、いつも人間がこの社会矛盾の間で生きながら渴望している感覚によつて、私たちがわれとわが身をだましてゆくことを、はつきり拒絶したいと思えます。愛が聖らかであるなら、それは純潔な怒りと憎悪と適切な行動に支えられたときだけです。そして、現代の常識として忘れてならぬ一つのことは、愛にも階級性があるという、無愛想な真実です。

〔一九四八年二月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十七卷」新日本出版社

1981（昭和56）年3月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第十五卷」河出書房

1953（昭和28）年1月発行

初出：「朝日評論」

1948（昭和23）年2月号

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2003年9月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

愛

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>